

3. 亜部位と局在コード《胃》

ICD-O-3において、胃はC16.0(噴門, NOS)、C16.1(胃底部)、C16.2(胃体部)、C16.3(胃前庭部)、C16.4(幽門)に分類される。C16.5(胃小彎, NOS)、C16.6(胃大彎, NOS)は他の情報がない場合を除いては用いない。

取扱い規約(第15版)では、胃を3等分して、U(Upper Part: 上部)、M(Middle Part: 中部)、L(Lower Part: 下部)に区分(図1)するが、胃全摘術等で胃のほとんどが切除できないこうした分類は難しい。内視鏡的検査においては、穹隆部、胃体部、胃角部、前庭部に4分して(図2)記述されるため、穹隆部はC16.1、胃体部はC16.2、前庭部はC16.3にコードされる。胃角部については、C16.2、C16.3のいずれか決めにくいので、その都度主治医に確認するか、事前にどちらかを採用するかを施設内で定めておくが良い。

C16.0(噴門)は、原発部位が「噴門部」や「食道胃接合部」のように明示され、胃が原発である旨の情報が得られた場合に採用することとなる。C16.4(幽門)は、「幽門」と明示されたときに用いることになっており、その頻度はきわめて低い。

なお、コードが定まった場合においても、「胃体上部小彎前壁寄り」などのように、より詳細な部位を原発部位テキスト【309】に記述することが望ましい。

表1 取扱い規約の表記とICD-O-3局在コード 《胃》 側性のない臓器

	ICD-O 局在	取扱い規約 (第15版)	診療情報所見	備考
腫瘍占居部位	C15._	E(食道)	食道(C15._)を参照	噴門から2cmの範囲の食道側に原発巣がある場合、C15.2(腹部食道)、C16.0(食道胃接合部)のいずれにコードするかは、主治医の意見に従うこと。
	C.16.0	U, NOS	噴門、NOS (胃噴門、噴門部) 噴門食道接合部 (食道胃接合部)	噴門部癌、噴門食道接合部癌などの記載がある場合、あるいは噴門から2cmの範囲の胃側に原発巣がある場合には、C16.0にコードする。
	C16.1		胃底部 (胃底) 穹隆部	噴門や食道噴門接合部等の記載がない場合は、C16.1(胃底部)にコードする
	C16.2	M, NOS	胃体部 (胃体)	
	C16.3	L, NOS	胃前庭部 幽門前庭	
	C16.4		幽門 (幽門管) 幽門前部	該当する取扱い規約部位なし
	C16.5	胃角 注1	胃小彎、NOS	原発部位が胃角であることが明確な場合は、C16.5を割り当てる。
	C16.6		胃大彎、NOS	該当する取扱い規約部位なし
	C16.8		胃の境界部病巣 胃前壁、NOS 胃後壁、NOS	該当する取扱い規約部位なし
	C16.9	上記部位の記載がなく "胃"の記載のみのもの	胃、NOS(部位不明)	

注1 胃角と胃角部は同義ではない(図2参照)。胃角部は胃角より広範囲を指す。

「胃角部」という記載がある場合は、より詳細な部位(胃体部または胃前庭部どちらに当たるか)を確認する必要がある。

※ ICD-O 局在コードと取扱い規約の占居部位は1対1で対応しない。取扱い規約で定めている部位のみが記載されている場合(U, M, Lのみ)は、対応表に基づきICD-O 局在コードを割り当てる。なお、診療録・手術記録・病理報告書等でICD-O 局在コードを特定できる場合は、その記載を尊重する。

※ 横隔膜より遠位(胃の側)の食道がんは、原則としてC15.2(腹部食道がん)を局在コードとする。

※ 食道胃接合部がんを、胃がん(C16.0)で分類するか、食道がん(C15.2)で分類するかは、主治医の判断によるものとする。

4. 形態コード(病理組織型)《胃》

胃に原発する腫瘍のほとんどは上皮性腫瘍であり、がん登録の対象となるものは、1) 悪性上皮性腫瘍(主に腺癌)、2) 内分泌細胞腫瘍(多くは腺癌由来)、3) 非上皮性腫瘍(平滑筋肉腫、GIST、他)、4) 悪性リンパ腫などに大別できる。

UICC TNM 分類【第8版】では、癌腫を**1.胃**で病期分類する他、内分泌細胞腫瘍の NET G1 や NET G2 などのカルチノイド腫瘍には**2. 高分化型神経内分泌腫瘍**の分類を用い、NEC や MANEC は癌腫扱いとする。消化管間質腫瘍(GIST)や悪性リンパ腫はおおのこの分類を用いる。

組織型が判然としない場合で(形態コードとしては 8000/3 が付されるケースが多い)、主治医が特に特殊な腫瘍とは考えていない場合は癌腫相当として、**1.胃**で病期分類することになる。

また、ICD-O-3 では、より分化度の低い組織型の形態コードを採用することとされているが、わが国では量的に優勢な組織像に従って、形態コードを決定する点にも留意すること。

表2. 取扱い規約の表記他と ICD-O-3 形態コード《胃》

●: 胃癌取扱い規約【第15版】記載の組織診断名

◆該当 TNM	病理組織名(日本語)	英語表記	●	形態コード
上皮性腫瘍				
1	一般型	Common Type	●	
1	乳頭腺癌	Papillary adenocarcinoma (pap)	●	8260/3
1	管状腺癌	Tubular adenocarcinoma (tub)	●	8211/3
1	高分化型	well differentiated type (tub1)	●	8211/31
1	中分化型	moderately differentiated type (tub2)	●	8211/32
1	低分化腺癌	Poorly differentiated adenocarcinoma (por)	●	8140/33
1	充実型	solid type (por1)	●	8140/33
1	非充実型	non-solid type (por2)	●	8140/33
1	印環細胞癌	Signet-ring cell carcinoma (sig)	●	8490/3
1	粘液癌	Mucinous adenocarcinoma (muc)	●	8480/3
1	特殊型	Special Type		
1	リンパ球浸潤癌	Carcinoma with lymphoid stroma	●	8512/3
1	胎児消化管類似癌	Adenocarcinoma with enteroblastic differentiation	●	8140/3
1	肝様腺癌	Hepatoid adenocarcinoma	●	8576/3
1	胃底腺型腺癌	Adenocarcinoma of fundic gland type	●	8140/3
1	腺扁平上皮癌	Adenosquamous carcinoma	●	8560/3
1	扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma	●	8070/3
1	未分化癌	Undifferentiated carcinoma	●	8020/3
2	カルチノイド腫瘍(神経内分泌腫瘍)	Carcinoid tumor	●	8240/3
2	NET G1	NET G1	●	8240/31
2	NET G2	NET G2	●	8249/32
1	内分泌細胞癌	Endocrine cell carcinoma/Neuroendocrine carcinoma	●	8246/3
1	NEC G3 (小細胞癌)	Small cell NEC		8041/3
1	NEC G3 (大細胞癌)	Large cell NEC		8013/3
1	MANEC	Mixed adenoneuroendocrine carcinoma	●	8244/3
非上皮性腫瘍				
	軟部腫瘍			
3	胃腸間質腫瘍、良性	Gastrointestinal stromal tumor, benign	●	8936/0
3	胃腸管間質腫瘍	Gastrointestinal stromal tumor (GIST), NOS	●	8936/1
3	胃腸管間質腫瘍、悪性	Gastrointestinal stromal tumor (GIST), Malignant	●	8936/3
4	肉腫, NOS	Sarcoma, NOS		8800/3
4	平滑筋肉腫, NOS	Leiomyosarcoma, NOS	●	8890/3
	リンパ腫			
5	MALT リンパ腫 (節外性辺縁層リンパ腫)※1	MALT lymphoma (Extranodal marginal zone B-cell lymphoma)	●	9699/36
5	濾胞性リンパ腫※2	Follicular lymphoma	●	9690/3
5	マンテル細胞リンパ腫※2	Mantle cell lymphoma	●	9673/3
5	びまん性大細胞型リンパ腫	Diffuse large B-cell lymphoma	●	9680/36

◆該当TNM	病理組織名(日本語)	英語表記	●	形態コード
1	高分化癌※3	well differentiated carcinoma		8140/31
1	中分化癌※3	moderately differentiated carcinoma		8140/32
1	低分化癌※3	poorly differentiated carcinoma		8140/33

◆ 該当TNM分類： 該当する病期分類は以下の通り

1. 胃
2. 高分化型神経内分泌腫瘍
3. 消化管間質腫瘍(GIST)
4. 軟部腫瘍
5. 非ホジキンリンパ腫

* 8246/31 の場合は、「2. 高分化型神経内分泌腫瘍」、8246/31 以外の場合は、「1. 胃」

※1 MALT リンパ腫がB細胞性であるという情報は、臨床医・病理医に確認しておくことが望ましい。

※2 濾胞性あるいはマントル細胞リンパ腫以上に詳細な情報があれば、ICD-O-3.1 の該当する形態コードを用いる。

※3 胃癌・大腸癌において、「●分化癌」という記述は腺癌という表現がなくても、「腺癌」と扱って、形態コードについては「8010/3」ではなく「8140/3」を採用する

【神経内分泌腫瘍の扱いについて】

UICC 第8版では、消化管原発の神経内分泌腫瘍(カルチノイド腫瘍)は、癌腫に含めず(本テキストでいう「胃癌」「大腸癌」などの対象とはせず)、「神経内分泌腫瘍」として別の病期分類を行うことになるが、これらは、いわゆる「主要5部位」の癌腫には含まれない。

ただし、ICD-O3 において 8240 番台の形態コードを持つ、**表3-1** の杯細胞カルチノイド、複合カルチノイド、腺カルチノイド、高分化型でない神経内分泌癌は、癌腫として扱うので注意すること。

表3-1. 癌腫扱いで UICC 第8版の胃・大腸の癌腫の対象となるもの (主要5部位がんを含める)

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
杯細胞カルチノイド	Goblet cell carcinoid	8243/3
複合カルチノイド	Composite Carcinoid	8244/3
腺カルチノイド	Adenocarcinoid tumor	8245/3
高分化以外の神経内分泌癌	Neuroendocrine carcinoma, excl. well differentiated	8246/32 /33,/34,/39 (分化度1以外)

表3-2 神経内分泌腫瘍の形態コードについて

診断名	現状 ~2017年	隣以外 2018年~	備考
NET	—	8240/39	
NET G1	8240/3_	8240/31	
NET G2	8249/3_	8249/32	
NET G3	—	8249/33	*隣の診断で新しくできたもの。 *隣以外でこの診断名の場合、NEC G3 とは別のものか確認し、別ということであれば 8249/33 を付与※
NEC G3	8246/3_	8246/3_	*small cell NEC 8041/3_ *large cell NEC 8013/3_
MANEC	8244/3_	8244/3_	

【胃腸管間質腫瘍(GIST)の扱いについて】 2012年以降の症例についての変更

UICC【第7版】で胃腸管間質腫瘍(GIST)の病期分類が新設されたため、境界悪性あるいは良性悪性の別不詳の GIST「8936/1」も登録対象とする。なお、2016年症例からは、病理学的に明らかに良性「8936/0」と考えられる場合も、登録対象とする。また、カルチノイドと同様、胃・大腸原発であっても「主要5部位」の癌腫ではないが、2016年症例からは、病期分類も必須となる。

3. 亜部位と局在コード《結腸および直腸》

ICD-O-3において、大腸は結腸とS状結腸直腸移行部、および直腸に3分される。関連した部位として、C18.1(虫垂)とC21.1(肛門管)があるが、これらに原発した腫瘍は主要5部位の腫瘍とはしないこととされている。結腸は、C18.0(盲腸)、C18.2(上行結腸)、C18.4(横行結腸)、C18.6(下行結腸)、C18.7(S状結腸)に細分され、S状結腸と直腸の移行部はC19.9と独立した部位となり、直腸はC20.9として細分されていない。

大腸癌取扱い規約(第9版)では、結腸はC:盲腸、A:上行結腸、T:横行結腸、D:下行結腸、S:S状結腸に5分され、ICD-O-3に存在するC18.3(右結腸曲)、C18.5(左結腸曲)にあたる記号は定められていない。また直腸はICD-O-3の直腸S状結腸移行部を含んで、RS(直腸S状部)とされ、さらに腹膜反転部を境にしてRa:上部直腸、Rb:下部直腸に分けられている。

第8版からはV:虫垂、P:肛門管については「大腸癌」には含まないこととされた。

なお、コードが定まった場合においても、「直腸左壁」などのように、より詳細な部位を原発部位テキスト【309】に記載することが望ましい。

表1 取扱い規約の表記とICD-O-3局在コード《結腸および直腸》 側性のない臓器

	ICD-O 局在	取扱い規約 (第9版)	診療情報所見	備考
腫瘍 占拠 部位	C18.0	C	盲腸 Cecum 回盲弁 回盲接合部	
	C18.1	V	虫垂 Appendix vermiformis	虫垂は、UICCでは結腸・直腸と別の病期分類がされるため、主要5部位には含まない。
	C18.2	A	上行結腸 Ascending colon	
	C18.3		右結腸曲 Hepatic flexure of colon	
	C18.4	T	横行結腸 Transverse colon	
	C18.5		左結腸曲 Splenic flexure of colon	
	C18.6	D	下行結腸 Descending colon	
	C18.7	S	S状結腸 Sigmoid colon	
	C18.8		結腸の境界部病巣	
	C18.9		結腸, NOS 右結腸, NOS 左結腸, NOS	右結腸, NOS、左結腸, NOSは、ICD-O-3においては、それぞれC18.2(上行結腸)、C18.6(下行結腸)に割り当てられているが、わが国においては、盲腸を含んで右結腸と表現することもあること、S状結腸も含めて左結腸とすることがあることを考慮し、がん登録においては、C18.9(結腸, NOS)を割り当てることとした。
C19.9	RS	直腸S状結腸移行部 Rectosigmoid junction 直腸S状結腸 結腸および直腸 骨盤直腸移行部	取扱い規約のRS(直腸S状部)とUICC TNMのrectosigmoid junctionは解剖学的に同一ではないが、規約のRS(直腸S状部)はC19.9に割り当てることとした。	
C20.9	Ra Rb R, NOS	直腸, NOS Rectum 直腸膨大部 Rectal Ampulla	取扱い規約では、RSより遠位(肛門側)の直腸をRa(上部直腸)とRb(下部直腸)に分けている。	

4. 形態コード（病理組織型） 《結腸および直腸》

大腸に原発する腫瘍のほとんどは上皮性腫瘍であり、がん登録の対象となるものは、1) 悪性上皮内腫瘍（主に腺癌）、2) 内分泌細胞腫瘍（多くは腺癌由来）、3) 非上皮性腫瘍（平滑筋肉腫、GIST、他）、4) 悪性リンパ腫などに大別できる。

UICC TNM 分類【第8版】では、癌腫を1. 結腸および直腸で病期分類する他、内分泌細胞腫瘍の NET G1 や NET G2 などのカルチノイド腫瘍には2. 高分化型神経内分泌腫瘍の分類を用い、NEC や MANEC は癌腫扱いとする。消化管間質腫瘍(GIST)や悪性リンパ腫はおおのこの分類を用いる。

組織型が判然としない場合で(形態コードとしては 8000/3 が付されるケースが多い)、主治医が特に特殊な腫瘍とは考えていない場合は癌腫相当として、1. 結腸および直腸で病期分類することになる。

また、ICD-O-3 では、より分化度の低い組織型の形態コードを採用することとされているが、わが国では量的に優勢な組織像に従って、形態コードを決定する点にも留意すること。

表2 取扱い規約の表記他と ICD-O-3 形態コード 《結腸および直腸》

●:大腸癌取扱い規約【第9版】記載の組織診断名

◆該当 TNM	病理組織名(日本語)	英語表記 []に取扱い規約での略号を示す	形態コード
上皮性腫瘍			
1	腺癌, NOS	Adenocarcinoma	● 8140/3
1	乳頭腺癌	Papillary adenocarcinoma [pap]	● 8260/3
1	管状腺癌	Tubular adenocarcinoma [tub]	● 8211/3
1	高分化	Well differentiated type [tub1]	● 8211/31
1	中分化	Moderately differentiated type [tub2]	● 8211/32
1	低分化腺癌	Poorly differentiated adenocarcinoma	● 8140/33
1	充実型	Solid type [por1]	● 8140/33
1	非充実型	Non-solid type [por2]	● 8140/33
1	粘液癌	Mucinous adenocarcinoma [muc]	● 8480/3
1	印環細胞癌	Signet ring cell carcinoma [sig]	● 8490/3
1	髄様癌	Medullary carcinoma	● 8510/3
1	腺扁平上皮癌	Adenosquamous carcinoma [asc]	● 8560/3
1	扁平上皮癌, NOS	Squamous cell carcinoma, NOS [scc]	● 8070/3
2	カルチノイド腫瘍(神経内分泌腫瘍)	Carcinoid tumor	● 8240/3
2	NET G1	NET G1	● 8240/31
2	NET G2	NET G2	● 8249/32
1	内分泌細胞癌※1	Endocrine cell carcinoma/Neuroendocrinecarcinoma ※1	● 8246/3
1	NEC G3 (小細胞癌)	Small cell NEC	8041/3
1	NEC G3 (大細胞癌)	Large cell NEC	8013/3
1	MANEC	Mixed adenoneuroendocrine carcinoma	● 8244/3
1	腺腫性ポリープ内上皮内腺癌 ※1	Adenocarcinoma in situ in adenomatous polyp	8140/2
1	腺腫性ポリープ内腺癌 ※1	Adenocarcinoma in adenomatous polyp	8140/3
1	管状絨毛状腺腫内腺癌	Adenocarcinoma in tubulovillous adenoma	8140/3
1	絨毛状腺腫内腺癌	Adenocarcinoma in villous adenoma	8140/3
1	大腸腺腫性ポリポーシス内腺癌	Adenocarcinoma in adenomatous polyposis coli	8140/3
非上皮性腫瘍			
4	平滑筋肉腫 NOS	Leiomyosarcoma, NOS	8890/3
3	胃腸間質腫瘍、良性	Gastrointestinal stromal tumor, benign	● 8936/0
3	胃腸管間質腫瘍(GIST), NOS	Gastrointestinal stromal tumor, NOS	● 8936/1
3	胃腸管間質腫瘍(GIST), 悪性	Gastrointestinal stromal tumor, Malignant	● 8936/3
リンパ腫			
5	B細胞性リンパ腫	B-cell lymphoma	● 9599/36
5	MALT リンパ腫 ※2	MALT lymphoma	● 9699/36
5	濾胞性リンパ腫 ※3	Follicular lymphoma	● 9690/36
5	マンツル細胞リンパ腫 ※3	Mantle cell lymphoma	● 9673/36
5	びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫	Diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL)	● 9680/36
5	Burkitt リンパ腫	Burkitt lymphoma	● 9687/36

◆該当 TNM	病理組織名(日本語)	英語表記 []に取扱い規約での略号を示す	形態コード
1	高分化癌 ※4	well differentiated carcinoma	8140/31
1	中分化癌 ※4	moderately differentiated carcinoma	8140/32
1	低分化癌 ※4	poorly differentiated carcinoma	8140/33

◆該当 TNM 分類 : UICC TNM 分類【第 8 版】で該当する病期分類

1. 結腸および直腸 2. 高分化型神経内分泌腫瘍 3. 消化管間質腫瘍(GIST)
4. 軟部組織 5. 悪性リンパ腫 6. 該当 TNM 分類なし

* 8246/3 内分泌細胞癌(神経内分泌癌)は、高分化 8246/31_ の場合は「2. 高分化型神経内分泌腫瘍」、それ以外(8246/31_ 以外)の場合は「1. 結腸および直腸」(癌腫)によって、病期分類する。

※1 腺腫内癌(上皮内癌含む)は、腺腫内にある癌の組織型を優先して採用する。

※2 MALT リンパ腫がB細胞性であるという情報は、臨床医・病理医に確認しておくことが望ましい。

※3 濾胞性あるいはマントル細胞リンパ腫以上に より詳細な(特異的)情報があれば、該当する特異的な形態コードを用いる。

※4 大腸癌では、「●分化癌」と書かれている場合は、「腺癌」と扱って、形態コードについては「8140/3」を採用する。

【神経内分泌腫瘍の扱いについて】

UICC 第 8 版では、消化管原発の神経内分泌腫瘍(カルチノイド腫瘍)は、癌腫に含めず(本テキストでいう「胃がん」「大腸がん」などの対象とはせず)、「神経内分泌腫瘍」として別の病期分類を行うことになるが、これらは、いわゆる「主要 5 部位」の癌腫には含まれない。

ただし、ICD-O3 において 8240 番台の形態コードを持つ、表3-1 の杯細胞カルチノイド、複合カルチノイド、腺カルチノイド、高分化型でない神経内分泌癌は、癌腫として扱うので注意すること。

表3-1. 癌腫扱いで UICC 第 8 版の胃・大腸の癌腫の対象となるもの (主要5部位がんを含める)

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
杯細胞カルチノイド	Goblet cell carcinoid	8243/3
複合カルチノイド	Composite Carcinoid	8244/3
腺カルチノイド	Adenocarcinoid tumor	8245/3
高分化以外の神経内分泌癌	Neuroendocrine carcinoma, excl. well differentiated	8246/32 /33,/34,/39 (分化度 1 以外)

表3-2

診断名	現状 ~2017 年	隣以外 2018 年~	備考
NET	—	8240/39	
NET G1	8240/3_	8240/31	
NET G2	8249/3_	8249/32	
NET G3	—	8249/33	*隣の診断で新しくできたもの。 *隣以外でこの診断名の場合、NEC G3 とは別のものか確認し、別ということであれば 8249/33 を付与※
NEC G3	8246/3_	8246/3_	*small cell NEC 8041/3_ *large cell NEC 8013/3_
MANEC	8244/3_	8244/3_	

3. 亜部位と局在コード

ICD-O-3において、肝は肝臓実質を表す C22.0(肝, NOS)と肝内胆管を表す C22.1(肝内胆管)にいずれかのコードが用いられる。肝については組織型と局在コードが密接に関連しているので注意することが必要である。

なお、肝門部腫瘍である Klaskin 腫瘍は原則として、《肝》ではなく、《肝外胆管》の扱いとなる。

また、コードが定まった場合においても、「肝 S2、S3」などのように、より詳細な部位を原発部位テキスト【309】に記述することが望ましい。

表2 取扱い規約の表記とICD-O-3局在コード 《肝》側性のない臓器

	ICD-O 局在	取扱い規約【第6版】	診療情報所見	備考
腫瘍占居部位	C22.0 *	L(外側区域)	S2、S3	がん登録(機能的区分)での左葉
		M(内側区域)	S4	がん登録(機能的区分)での左葉
		A(前区域)	S5、S8	がん登録(機能的区分)での右葉
		P(後区域)	S6、S7	がん登録(機能的区分)での右葉
		C(尾状葉)	S1	がん登録(機能的区分)での左葉
	C22.1	Bh	肝内胆管	

* C22.0 は肝内胆管を除く肝実質の意味で、肝細胞癌に用いる他、肝内胆管以外に原発する肉腫などにも用いる。

* 院内がん登録では、肝細胞癌と胆管細胞癌の混合癌の場合は、肝内胆管癌と同様の病期分類となるため、局在コードは「C22.1」とする。

4. 形態コード(病理組織型)

ICD-O-3において、肝細胞癌と胆管細胞癌に分類することが重要である。

この2種の癌腫については、病理組織診や細胞診が行われなくても、画像診断等からこれらの形態コードを採用して良いので、画像診断の内容等を十分精査すること。

表3 取扱い規約の表記他とICD-O-3形態コード 《肝》 ●:原発性肝癌取扱い規約【第6版】に記載の組織診断名

◆該当 TNM	病理組織名(日本語) 取扱い規約【第6版】	英語表記	●	形態コード		
1	肝細胞癌 ※1	Hepatocellular carcinoma (liver cell carcinoma)	●	8170/3_		
	高分化型～	well diff. hepatocellular ca.		8170/31		
	中分化型～	mod. diff. hepatocellular ca.		8170/32		
	低分化型～	poorly diff. hepatocellular ca.		8170/33		
	未分化癌	undifferentiated ca.		8170/34		
	線維層板状～	Fibrolamellar ca.		8171/3_		
	2	肝内胆管癌 ※1 (胆管細胞癌)		Intrahepatic cholangiocarcinoma (cholangiocellular carcinoma)	●	8160/3
		腺癌		Adenoca.	8160/3_	
		高分化型～		well diff. adenoca.	8160/31	
		中分化型～		mod. diff. adenoca.	8160/32	
		低分化型～		poorly diff. adenoca.	8160/33	
		腺扁平上皮癌		Adenosquamous cell ca.	8560/3_	
		肉腫様癌		Sarcomatous ca.	8033/3_	
		紡錘細胞型～		Spindle cell type	8032/3_	
粘液癌		Mucinous ca.	8480/3_			
粘表皮癌		Mucoepidermoid ca.	8430/3_			
印環細胞癌	Signet-ring cell ca.	8490/3_				
扁平上皮癌	Squamous cell ca.	8070/3_				
小細胞癌	Small cell ca.	8041/3_				
胆管内乳頭状腫瘍、高度異型	IPNB, high grade	8503/2_				
胆管内乳頭状腫瘍、浸潤癌を伴う	IPNB with ann associated invasive ca.	8503/3_				
胆管内上皮内腫瘍、Billin-3	Billin-3	8148/2_				

◆該当 TNM	病理組織名(日本語) 取扱い規約【第6版】	英語表記	●	形態コード
2	細胆管細胞癌	cholangiolocellular carcinoma	●	8160/3
2	胆管嚢胞腺癌	Bile duct cystadenocarcinoma	●	8161/3
	粘液嚢胞腺癌	MCN with high grade intraepithelial neoplasia		8470/2_
		MCN with an associated invasive ca.		8470/3_
2	混合型肝癌 (肝細胞癌と胆管細胞癌の混合型)	Combined hepatocellular and cholangiocarcinoma	●	8180/3_
3	肝芽腫	Hepatoblastoma	●	8970/3_
	胎児型			8970/3_
	胎芽型			8970/3_
	胎児・胎芽混合型			8970/3_
	大索状型			8970/3_
	未分化小細胞型			8970/3_
	上皮・間葉混合型			8970/3_
	上皮型	Epithelial variant		8970/3_
4	類上皮(性)血管内皮腫(悪性)	Epithelioid haemangioendothelioma, malignant	●	9133/3
4	血管肉腫	Angiosarcoma (Hemangiosarcoma)	●	9120/3
3	未分化肉腫 ※2 (胎芽性肉芽腫)	Undifferentiated sarcoma (embryonal sarcoma)	●	8991/3
3	横紋筋肉腫	Rhabdomyosarcoma	●	8900/3
3	奇形腫(悪性)	Teratoma, malignant	●	9080/3
3	卵黄嚢腫瘍	Yolk sac tumor(endodermal sinus tumor)	●	9071/3
4	癌肉腫	Carcinosarcoma	●	8980/3
4	カポジ肉腫	Kaposi sarcoma	●	9140/3
3	悪性ラブドイド腫瘍	Rhabdoid tumor	●	8963/3

◆該当 TNM : 該当する病期分類は以下の通り

1. 肝細胞癌 2. 肝内胆管癌 3. 軟部腫瘍 4. 該当 TNM 分類なし

※1 病理学的(顕微鏡学的)診断がなくても、肝細胞癌は「8170/3」、胆管細胞癌は「8160/3」とコードしてよい。
(後者は国際的には病理学的に確認されないと付けることができないコードであるが、わが国の画像診断技術を考慮してコードを付けて良いことになった。《院内がん登録では2012年以降》)

※2 がん登録では、未分化肉腫は「8805/3_」ではなく、「8991/3_」のコードを採用する。

【注意】がん登録での取扱い

「肝癌」あるいは「肝臓癌」の記載のみでも、

TAE、PEIT、RFA(7. 治療の項参照)などの『肝細胞癌への適応がある治療』が実施されている場合は、

「肝細胞癌」と扱ってよい。(主治医にも可能な限り確認すること)

3. 亜部位と局在コード《肺》

ICD-O-3において、肺はC34.0(主気管支)、C34.1(上葉)、C34.2(中葉)、C34.3(下葉)に分類される。

取扱い規約(第8版)でも、同様にU(Upper Lobe: 上葉)、M(Middle Lobe: 中葉)、L(Lower Lobe: 下葉)に区分(図1)する。内視鏡(気管支鏡)検査の所見では、気管を経て左右の主気管支(MB)が分岐する部分を気管分岐部: Carina と呼び、およそ第4~5胸椎の高さとされる。右肺では右主気管支から上葉支(上幹: Bu)が分岐し、その先の間幹(Bint)を経て、中葉支(中葉気管支: Bm)と下葉支(下幹: Bl)とに分岐する。左肺では、左主気管支から上葉支(上幹: Bu)と下葉支(下幹: Bl)が分岐し、上葉支は上区枝と舌区枝に分かれる。

なお、ICD-O-3でいう主気管支(C34.0)には右上葉支分岐後の「中間幹」を含むことに留意すること。

コードが定まった場合においても、「右上葉S2」あるいは「左下葉前肺底区」などのように、より詳細な部位を診断名テキスト【309】に記述することが望ましい。

表1. 取扱い規約の表記とICD-O-3局在コード《肺》 側性あり臓器

	ICD-O 局在	診療情報所見	手術記載 用語	気管支名	区域名
腫瘍と局在部位	C33.9*	気管		Tr (trachea)	
	C34.0	主気管支 分岐部 肺門部		MB (main bronchus) 主気管支 主幹(左右) Birt (中間幹)	
	C34.1	上葉、肺尖部 舌区、肺小舌	U (左右肺)	Bu, superior lobar bronchus(rt, lt)、上幹 上葉気管支(左右)もしくは動脈上気管支 右肺: B ¹ (肺尖枝) B ² (後上葉枝) B ³ (前上葉枝) 左肺: B ¹⁺² (肺尖後枝) B ³ (前上葉枝) B ⁴ (上舌枝) B ⁵ (下舌枝)	右肺: S ¹ (肺尖区) S ² (後上葉区) S ³ (前上葉区) 左肺: S ¹⁺² (肺尖後区) S ³ (前上葉区) S ⁴ (上舌区) S ⁵ (下舌区)
	C34.2	中葉 中葉、気管支	M (右肺のみ)	Bm、中葉気管支(右のみ) rt middle lobar bronchus 右肺のみ: B ⁴ (外側中葉枝) B ⁵ (内側中葉枝)	右肺のみ: S ⁴ (外側中葉区) S ⁵ (内側中葉区)
	C34.3	下葉 下葉、気管支	L (左右肺)	Bl(下幹) inferior lobar bronchus (rt, lt) 左右肺: B ⁶ (上下葉枝) B ⁷ (内側肺底枝) B ⁸ (前肺底枝)、 B ⁹ (外側肺底枝) B ¹⁰ (後肺底枝)	左右肺: S ⁶ (上下葉区) S ⁷ (内側肺底区) S ⁸ (前肺底区)、 S ⁹ (外側肺底区) S ¹⁰ (後肺底区)
	C34.8	肺の境界部病巣			
	C34.9	肺、NOS 気管支、NOS 細気管支			

※ UICC TNM 分類では、気管(C33.0)は病期分類の対象外となる。

4. 形態コード(病理組織型)《肺》

肺癌は、非小細胞癌(75~80%)と小細胞癌(約15~20%)2つの型に大きく分類される。

① 非小細胞癌

非小細胞癌には、腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、腺扁平上皮癌などの組織型が含まれる。診断時にまだ局所に限定している非小細胞癌は、外科的切除あるいは化学療法との併用により治療が行われる。

腺癌:わが国で最も発生頻度が高く、男性の肺癌の40%、女性の肺癌の70%以上を占めている。通常の胸部レントゲン写真で発見されやすい「肺野型」と呼ばれる肺の末梢に発生する癌のほとんどが腺癌である。肺癌の中でも他の型に比べ、臨床像・組織像は多彩で、進行の速いものから進行の遅いものまでである。

扁平上皮癌:男性の肺癌の40%、女性の肺癌の15%を占めている。気管支が肺に入った近くに発生する肺門型と呼ばれる癌の頻度が、腺癌に比べて高い。

大細胞癌:一般に増殖が速く、肺癌と診断された時には大きな腫瘍であることが多い。

② 小細胞癌

小細胞癌は、リンパ球に似た比較的小さな細胞からなっており、燕麦(えんぱく)の様に見えることから燕麦細胞癌とも呼ばれるものが代表的な小細胞癌である。小細胞癌は、増殖が速く、脳・リンパ節・肝臓・副腎・骨などに転移しやすく、悪性度が高い。しかし、他の組織型の肺癌と異なり、抗癌剤が非常によく効くため、原則として、化学療法が第一選択となる。また、約80%以上の小細胞癌では、癌細胞が種々のホルモンを産生している。ホルモンそのものの過剰による症状があらわれることはまれであるが、Eaton-Lambert 症候群をはじめとする腫瘍随伴症候群を認めることは比較的多い。

表2. 取扱い規約の表記他と ICD-O-3 形態コード《肺》 ●:肺癌取扱い規約第8版に記載の組織診断名

◆該当 TNM	病理組織名	英語表記	●	形態コード
1	腺癌	Adenocarcinoma	●	8140/3_
1	置換型腺癌	Lepidic adenocarcinoma.	●	8250/3_
1	腺房型腺癌	Acinar adenocarcinoma	●	8550/3_
1	乳頭型腺癌	Papillary adenocarcinoma	●	8260/3_
1	微小乳頭型腺癌	Micopapillary adenocarcinoma	●	8265/3_
1	充実型腺癌	Solid adenocarcinoma	●	8230/3_
1	浸潤性粘液性腺癌	Invasive mucinous adenocarcinoma	●	8253/3_
1	粘液性・非粘液性混合型	Mixed invasive mucinous & non-mucinous adenocarcinoma	●	8254/3_
1	コロイド腺癌	Colloid adenocarcinoma	●	8480/3_
1	胎児性腺癌	Fetal adenocarcinoma	●	8333/3_
1	腸型腺癌	Enteric adenocarcinoma	●	8144/3
1	微小浸潤腺癌	Minimally invasive adenocarcinoma	●	8250/3_
1	非粘液性	Non-mucinous	●	8252/3_
1	粘液性	Mucinous	●	8253/3_
1	上皮内腺癌	Adenocarcinoma in situ	●	8140/2_
1	非粘液性	Non-mucinous	●	8140/2_
1	粘液性	Mucinous	●	8253/2*
1	扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma	●	8070/3_
1	角化型扁平上皮癌	Keratinizing squamous cell carcinoma	●	8071/3_
1	非角化型扁平上皮癌	Non-keratinizing squamous cell carcinoma	●	8072/3_
1	類基底細胞型扁平上皮癌	Basaloid squamous cell carcinoma	●	8083/3_
1	上皮内扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma in situ	●	8070/2_
	神経内分泌腫瘍	Neuroendocrine tumors	●	
1	小細胞癌	Small cell carcinoma	●	8041/3_
1	混合型小細胞癌	Combined small cell carcinoma	●	8045/3_
1	大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine carcinoma	●	8013/3_
1	混合型大細胞神経内分泌癌	Combined large cell neuroendocrine carcinoma	●	8013/3_
1	カルチノイド腫瘍	Carcinoid tumours	●	8240/3_
1	定型カルチノイド	Typical carcinoid	●	8240/3_
1	非定型カルチノイド	Atypical carcinoid	●	8249/3_

◆該当 TNM	病理組織名	英語表記	●	形態コード [※]
1	大細胞癌	Large cell carcinoma	●	8012/3_
1	腺扁平上皮癌	Adenosquamous carcinoma	●	8560/3_
	肉腫様癌	Sarcomatoid carcinoma		
1	多形細胞癌	Pleomorphic carcinoma	●	8022/3_
1	紡錘細胞癌	Spindle cell carcinoma	●	8032/3_
1	巨細胞癌	Giant cell carcinoma	●	8031/3_
1	癌肉腫	Carcinosarcoma	●	8980/3_
1	肺芽腫	Pulmonary blastoma	●	8972/3_
	分類不能癌	Other and unclassified carcinoma		
1	リンパ上皮腫様癌	Lymphoepithelioma-like ca.	●	8082/3_
1	NUT 転座癌	NUT carcinoma	●	8020/3_
	唾液腺型腫瘍	Salivary gland-type tumours		
1	粘表皮癌	Mucoepidermoid carcinoma	●	8430/3_
1	腺様嚢胞癌	Adenoid cystic carcinoma	●	8200/3_
1	上皮筋上皮癌	Epithelial-myoeipthelial carcinoma.	●	8562/3_
	間葉系腫瘍	Mesenchymal tumor		
4	悪性血管周囲類上皮細胞腫 (PEComa)	PEComa, malignant	●	8005/3_
4	類上皮性血管内皮腫	Epithelioid haemangioendothelioma	●	9133/3_
2	胸膜肺芽腫	Pleuropulmonary blastoma	●	8973/3_
2	滑膜肉腫	Synovial sarcoma	●	9040/3_
2	肺動脈内膜肉腫	Pulmonary artery intimal sarcoma	●	8800/3_
2	EWSR1-CREB1 変異を伴う 肺粘液肉腫	Pulmonary myxoid sarcoma w/ EWSR1-CREB1 translocation	●	8840/3_
4	筋上皮癌	Myoepithelial carcinoma	●	8982/3_
	リンパ組織球系腫瘍	Lymphohistiocytic tumours		
3	節外性濾胞辺縁帯粘膜関連リンパ組織型リンパ腫 (MALT リンパ腫)	Extranodal marginal zone lymphoma of mucosa-associated lymphoid tissue (MALT lymphoma)	●	9699/3_
3	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	Diffuse large B-cell lymphoma	●	9680/3_
3	血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫	Intravascular large B-cell lymphoma	●	9712/3_

* ルール F 採用により付与できるコード

※ 「非小細胞癌」という表現は、小細胞癌以外の組織成分が主体だが、優勢な組織型が特定できない時に限って用いる。

* TNM : 該当する病期分類は以下の通り

1. 肺
2. 軟部腫瘍
3. 非ホジキンリンパ腫
4. 該当 TNM 分類なし

3. 亜部位と局在コード《乳房》

ICD-O-3において、乳房は乳頭～乳輪の表面 C50.0(乳頭部)、乳輪皮下の乳腺を指す C50.1(乳輪部)の2部位を除いて、上下・内側外側に4等分した C50.2(内側上部)、C50.3(内側下部)、C50.4(外側上部)、C50.5(外側下部)の6部位でコードされる。

乳房に原発する肉腫

表1 取扱い規約の表記とICD-O-3局在コード《乳房》 側性あり臓器

	ICD-O 局在	取扱い規約 (第18版)	診療情報所見	備考
腫瘍占拠部位	C50.0	E'(乳頭部)	乳頭および乳輪	乳頭と乳輪の表面、乳頭部分を指す。
	C50.1	E(乳輪部)	乳房中央部	乳輪部の皮下に原発する腫瘍を指す。
	C50.2	A(乳房内上部)	乳房上内側4分の1	
	C50.3	B(乳房内下部)	乳房下内側4分の1	
	C50.4	C(乳房外上部)	乳房上外側4分の1	
	C50.5	D(乳房外下部)	乳房下外側4分の1	
	C50.6	C'(乳房の腋窩尾部)	乳房腋窩尾部 乳腺の尾部,NOS	
	C50.8	AB, AC・・・等 「2つ以上の領域にまたがり 主占拠部位が決定しにくい もの」	乳房の境界部病巣 外側乳房 上部乳房 内側乳房 下部乳房 乳房正中線部	※取扱い規約の表記では、 腫瘍が複数の亜部位に またがって存在する場合は、 初めに書かれている亜部位が その主部位となるので、 初めに書かれている亜部位を 原発の局在コードにする。 (例: CA → Cにあたる C50.4)
	C50.9		乳房,NOS 乳腺	

右乳房

左乳房

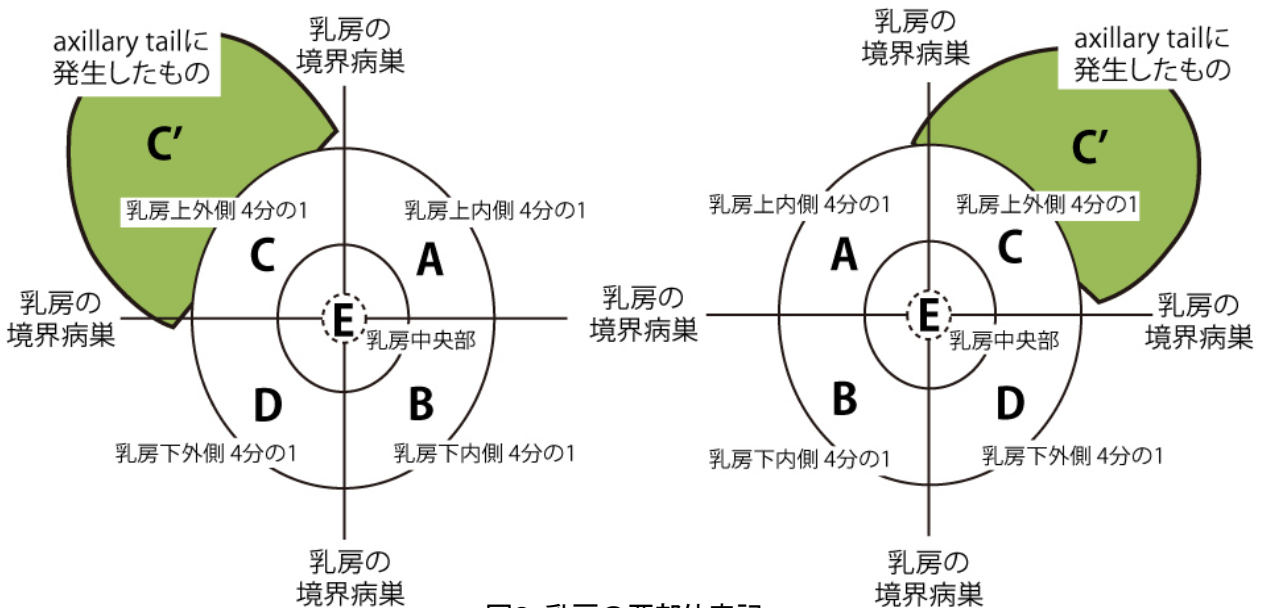


図2 乳房の亜部位表記

4. 形態コード(病理組織型)《乳房》

乳房に原発する腫瘍のほとんどは乳管上皮から発生する腫瘍で、ほとんどが導管癌と呼ばれる腺癌である。

取扱い規約【第 18 版】では、全体を非浸潤癌、微小浸潤癌、浸潤癌および Paget(パジェット)病に分類され、浸潤性乳管癌がんについてはわが国独自の分類で「腺管形成型」「充実型」「硬房型」「その他」に分類されるため、がん登録ではこれらの組織型について、8500/3 をコードして 6 桁目で上記を区別する。

表2 取扱い規約の表記他と ICD-O-3 形態コード《乳房》 ●:乳癌取扱い規約【第 18 版】に記載の組織診断名

◆該当 TNM	病理組織名(日本語) (取扱い規約第 18 版)	英語表記	形態コード
	非浸潤癌	Noninvasive carcinoma	
1	非浸潤性乳管癌	Ductal carcinoma in situ	● 8500/2
1	非浸潤性小葉癌	Lobular carcinoma in situ	● 8520/2
1	被包型乳頭癌	Encapsulated papillary carcinoma	● 8504/2
1	乳房 Paget〔パジェット〕病、上皮内浸潤癌	Paget's disease, mammary, in situ	8540/2
	浸潤癌	Invasive carcinoma	
1	浸潤性乳管癌	Invasive ductal carcinoma	● 8500/3
1	腺管形成型 ※	Tubule forming type	● 8500/31
1	充実型 ※	Solid type	● 8500/32
1	硬房型 ※	Scirrhus type	● 8500/33
1	その他 ※	Other type	● 8500/39
1	特殊型	Special types	
1	浸潤性小葉癌	Invasive lobular carcinoma	● 8520/3
1	管状癌	Tubular carcinoma	● 8211/3
1	篩状癌	Invasive cribriform carcinoma	● 8201/3
1	粘液癌	Mucinous carcinoma	● 8480/3
1	髄様癌	Medullary carcinoma	● 8510/3
1	アポクリン癌	Apocrine carcinoma	● 8401/3
	化生癌	Metaplastic carcinoma	
1	扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma	● 8070/3
	間葉系分化を伴う癌	Carcinoma with mesenchymal differentiation	
1	紡錘細胞癌	Spindle cell carcinoma	● 8572/3
1	骨・軟骨化生を伴う癌	Carcinoma with osseous /cartilaginous differentiation	● 8571/3
1	基質産生癌	Matrix-producing carcinoma	● 8575/3
1	浸潤性微小乳頭状癌	Invasive micropapillary carcinoma	● 8507/3*
1	分泌癌	Secretory carcinoma	● 8502/3
1	腺様嚢胞癌	Adenoid cystic carcinoma	● 8200/3
	その他	Other	
1	浸潤を伴う被包型乳頭癌	Encapsulated papillary carcinoma with invasion	● 8504/3
1	Paget 病	Paget's disease	● 8540/3
2	葉状腫瘍(葉状嚢胞肉腫)悪性	Phyllodes tumor (Cystosarcoma phyllodes), malignant	● 9020/3
1	癌肉腫	Carcinosarcoma	● 8980/3
2	間質肉腫	Stromal sarcoma	● 8935/3
3	血管肉腫	Hemangiosarcoma	● 9120/3
3	リンパ管肉腫	Lymphangiosarcoma	● 9170/3

◆該当 TNM :該当する病期分類は以下の通り

1. 乳腺 2. 軟部組織 3. 該当 TNM 分類なし

※ 浸潤性乳管癌の日本独自の亜分類に対して、がん登録では 6 桁の決められたコードを採用する。

* ルール F 採用により付与できるコード

上皮内癌について

上皮内癌には、非浸潤性、non-invasive、Carcinoma in situ 等の用語が用いられる。

微小浸潤(microinvasion)という記載があれば、浸潤癌とする。